

平成29年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 地域拠点サテライト東紀州サテライト
氏 名 山本康介

活動テーマ	東紀州サテライトを拠点とした熊野地域の小中高の児童・生徒に対する「木育」プログラムの開発と実施
実施期間	平成29年 5月 1日 ～ 平成30年 3月31日
活動内容	(1) 具体的な活動実施内容 熊野地域の小中高の児童・生徒を対象とした「木育」プログラムを計画し、熊野地域の若手林業家で構成される「熊野林星会（以下、林星会）」とともに実践する。昨年度は林業施業や間伐に関する講義を行った。今年度は、伐採された木が運ばれ、取引される原木市場のしくみと、それらを加工する製材業の作業工程を理解するための木育プログラムとして、木育ゲームを行い、その後原木市場、地元製材所を見学した。木育ゲームは①原木カードの入札（原木市場での原木丸太取引の疑似体験）②原木カードの木取り（製材所での木材加工疑似体験、木取りとは、丸太から柱や板をどのように取るか考える工程。）③完成した製品の売却を1ゲームとし、3ゲームを1セットとしてグループで得点を競うものであり、原案の作成および開発の全てを三重大学および林星会で行ったオリジナルゲームである。 (2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり） 本活動は、熊野地域の林業を担う人材の育成、自然と人間の共生を図り地域社会の持続的発展に寄与することができる人材の育成を目指しており、プログラムを通じて当該地域の主要産業である林産業への親しみと理解の気持ちの涵養が期待できる。また、今年度実施した木育ゲームに関しては、イベント後に県内外から問い合わせが非常に多く寄せられており、今後も別地域や別団体での実施や、実施ノウハウの講義によるリーダー育成等に取り組む予定である。 (3) 共同実施者との連携状況 本活動は昨年度から開始され、毎年恒例イベントとして実施していく体制を整えている段階であり継続性が高い。主催者である林星会から、三重大学からも毎年応援を期待しているとの要望を受けており、参加者の主体である熊野市および御浜町の児童・生徒および学童保育所からは、是非来年度も実施してほしいとの要望を受けている。 (4) 大学の教育・研究成果のかかわり 申請者および三重大学生物資源学部・坂本竜彦教授を中心に、当該地域で3年前から木質バイオマスの地域利用に関する研究を継続してお

り、木質バイオマス利用の大前提となる地域の林業およびその関連産業の振興のため、当該地域の若者（小中高校生）を対象とした活動を継続している。

（５）イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

今年度の木育イベントは以下の通り実施した。

イベント名称：第２回熊野木育プログラム

実施場所：熊野原木市場、野地木材工業株式会社

参加人数：児童３８名、その他約２０名、計約６０名。

当日の様子編集動画（外部へ公開しないでください）

<https://www.youtube.com/watch?v=hkTbpQBnNSk&feature=youtu.be>

当日の写真（被写体に確認済みであり、HP掲載等可能）



図１ 木育ゲームの説明を行うゲーム進行係



図 2 木育ゲームでの仮想的な原木市場で入札を行う児童

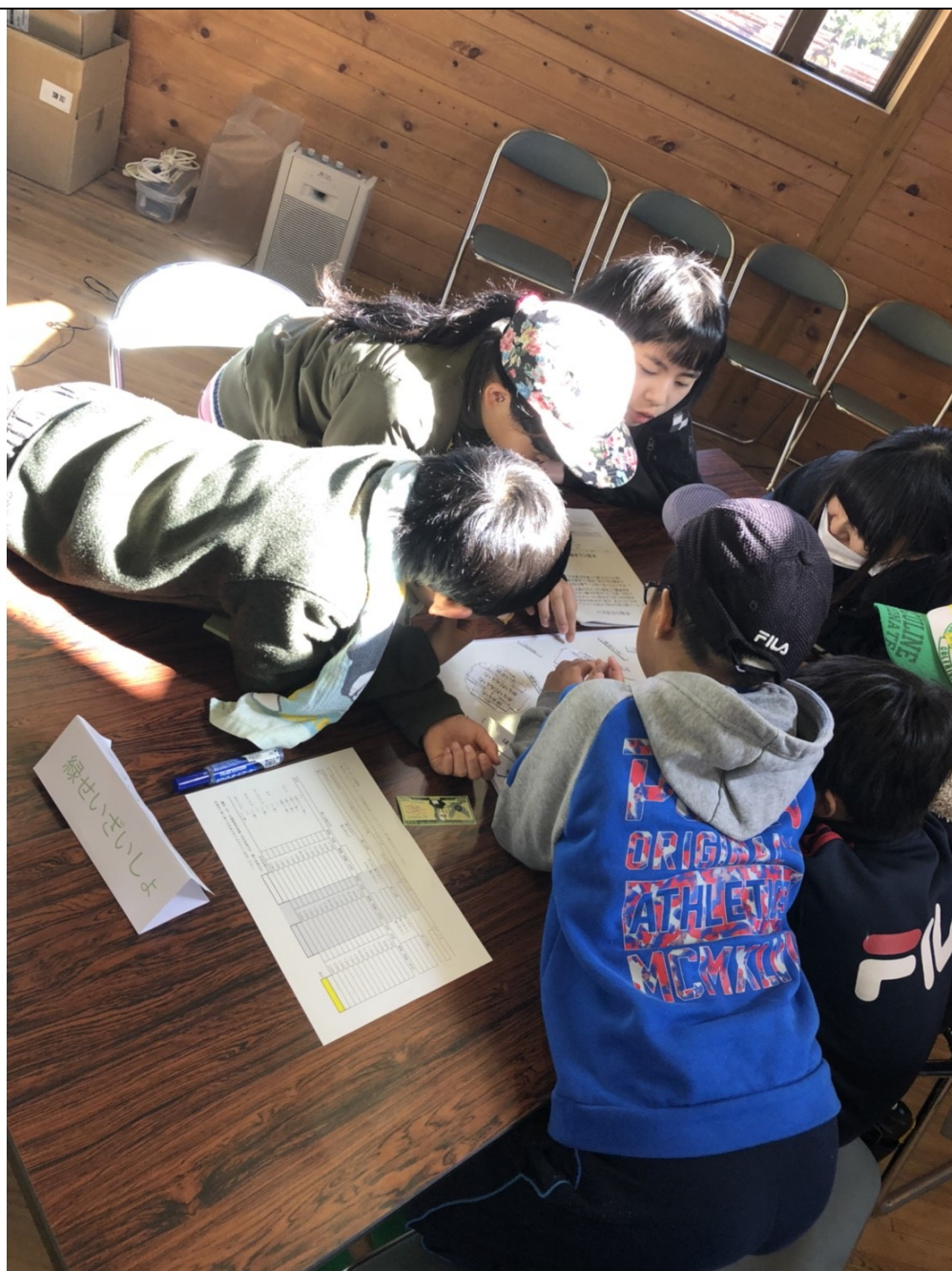


図3 木育ゲームで「木取り」の疑似体験をする児童

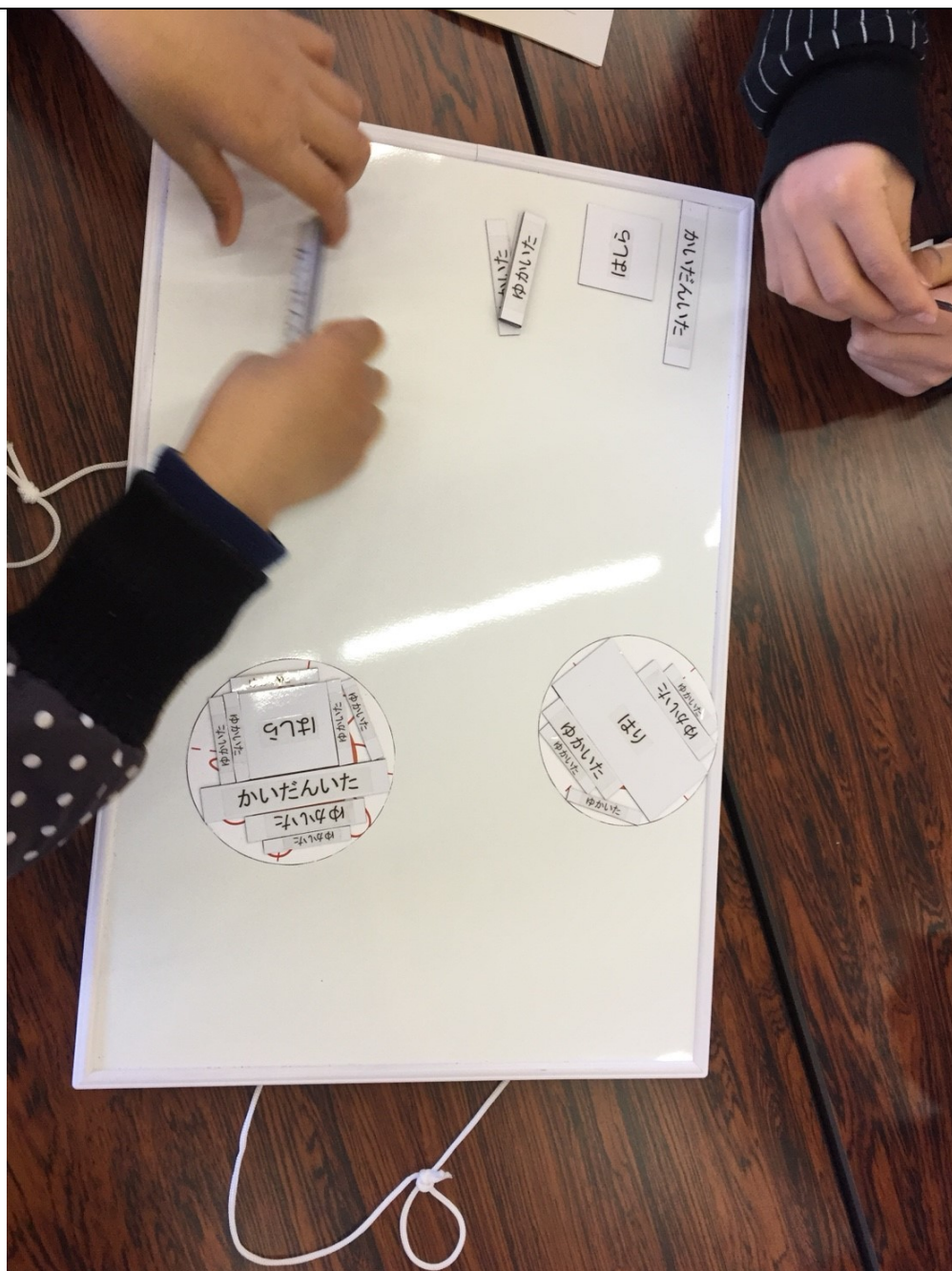


図 4 購入した原木カードに「木取り」を実施し製品を販売する



図 5 熊野原木市場見学の様子



図 6 地元製材所見学の様子

また、当日の様子は新聞等で報道された（図 7）。

県アンサンブルコンテスト南地区大会金賞の金管6重奏、木管混成8重奏などが繰り広げられた。部員たちが楽しそうに演奏。第2ステージは馴染みのあるポップスな聴こえる演奏に、惜しみない拍手が送られていた。

ゲームで木に親しむ

熊野林星会と三重大学による「熊野木育プロジェクト」が24日、熊野市飛鳥町の熊野原木市場で開かれ、多くの子どもたちが「セーザイゲーム」に取り組んだ。



【楽しみながら林業について学ぶ子どもたち】

学童保育も併設し

ニューのようなサイ

を案内した。ゲームは、林業と関連産業における市場機能と製材業を擬似体験するもの。入札で原木カードを取得し、原木を製材して製品として売却し、ポイントを競う。参加した学童の子どもたち38人は6グループに分かれて、製材所を経営。出品された13本のスギを、目利きして、購入価格を決めた上で良質材を競り落としていった。さらに、購入した原木から多く木取りできるよう工夫し、床板や梁（はり）、階段板、柱などに製材した。最後は、木取りした製材を売却し、より利益を上げたチームが勝利した。

図7 新聞報道記事

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

※継続4年目以降（認定）の活動については、これまでの継続した取組みによって得られた具体的な成果について記述願います。

昨年度の取組みが今年度も継続され、参加人数は18名から38名へと倍増した。児童だけではなく、その保護者や学童職員、県職員、市役所職員等もイベント当日に見学に訪れ、共同プロジェクトへ発展させる動きが複数期待できた。来年度実施に向けた動きはすでに開始しており、当該地域のみだけではなく全県・全国的な動きへ発展するための下地が整いつつある。